

こんな症状があてはまると「**口腔機能低下症**」の可能性がります！

- 1 硬いものが食べにくくなった
- 2 汁物を飲むときに時々むせるようになった
- 3 口の中が乾くようになった
- 4 薬を飲みにくくなった
- 5 滑舌が悪くなった
- 6 食事をするのに時間がかかるようになった
- 7 食べこぼしをするようになった
- 8 食後に口の中に食べものが残るようになった



最近、お口の健康に関心がうすくなってはいませんか？ 歯磨きの回数や時間が減ったり、義歯の不調があっても放置していると、虫歯や歯周病が進行し歯の数が減ってしまいます。それら口腔内の要因に加えて、**脳血管性認知症**や**服薬薬剤の副作用**からも**口腔機能低下症**へととなっていくことがあります。**口腔機能低下症**は、いくつかの口腔機能低下による複合的要因によって現れる病態です。適切に診断し、適切な管理を実施する必要があります。

診断基準

以下の7項目のうち3つ以上該当する場合

- 1) 口腔の不潔 (舌の汚れ)
- 2) 口腔の乾燥 (唾液の分泌量)
- 3) 咬合力の低下 (咬む力や残っている歯の数)
- 4) 舌口唇運動機能低下 (舌や唇の動き)
- 5) 低舌圧 (舌の力)
- 6) 咀嚼機能低下 (咀嚼力)
- 7) 嚥下機能低下 (モノを飲み込む力)



検査内容



口腔機能低下症と診断された場合には、低下していると診断された個々の口腔機能への対応を行います。それだけでなく、**口腔機能低下**に影響を及ぼしている全身状態の把握や、生活習慣病を改善するような動機付けを行い、生活・栄養・運動指導も合わせて実施する必要があります。全身状態とは、主に**現病歴**、**服薬薬剤**、**認知機能**、**意識レベル**等で評価します。その状況に応じた管理方法を検討することになります。例えば服薬薬剤により口腔機能の低下が引き起こられることがあり、口腔乾燥の頻度が高まり、口腔内衛生の悪化や食塊形成が困難などの問題が発生するとなると、口腔体操、唾液腺マッサージなど実施することで口腔内の管理していくことが必要となっていきます。以前とくらべて少しでも食べづらと思ったらスタッフまでお声がけください。

